



東京大学大学院 総合文化研究科  
グローバル地域研究機構 韓国学研究センター

＜東京大学韓国学研究センター 文化財研究会＞

## 「文化財について語る」

【日時】：2019年3月22日（金）13時00分～16時30分

【場所】：東京大学駒場Iキャンパス 10号館3階301号室

交通アクセス

<http://www.c.u-tokyo.ac.jp/info/about/visitors/maps-directions/index.html> QRコード→  
キャンパスマップ



[https://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam02\\_01\\_09\\_j.html](https://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam02_01_09_j.html) QRコード→



【主催】：東京大学韓国学研究センター

【後援】：国外所在文化財財団

【言語】：日本語（通訳なし）

【参加手続き】：無料・事前登録要（会場が狭いため、事前参加登録者が優先。）

下記のウェブフォームかメールで、事前に参加登録をお願いします。

- ・事前参加登録ウェブフォーム

<https://goo.gl/forms/KQRk1UJ7JkEETun42> QRコード→



- ・メールでの事前参加登録

[cks@iags-cks.c.u-tokyo.ac.jp](mailto:cks@iags-cks.c.u-tokyo.ac.jp)（東京大学韓国学研究センター）

総合司会 外村大（東京大学韓国学研究所センター長）

**【第1部】 文化財をとりまく昨今の事例と動向 13時～14時30分**

○吉田光男（東京大学名誉教授）

「東京大学所蔵『朝鮮王朝実録』のソウル大学引き渡しについて」

○森本和男（大阪経済法科大学客員研究員）

「文化財返還のヨーロッパの動向」

○長澤裕子（東京大学特任講師）

「対馬の盗難仏像をめぐる裁判判決文および韓国の研究動向」

休憩 14時30分～14時45分

**【第2部】 フリートーク 14時45分～16時30分**

第1部の登壇者全員および下記の専門家

○小島武博（対馬雨森芳洲会・会長）

元朝鮮通信使対馬顕彰事業会会長・元対馬市文化財課課長。主な著書に『対馬の交隣』（共著、交隣舎出版企画、2014）、『対馬府中藩』（共著、交隣舎出版企画、2015）。現在、『対馬が舵取りをした日朝通交』を執筆中。

○栗原俊雄（毎日新聞・記者）

主な著書に『シベリア抑留-未完の悲劇』（岩波書店、2009）、『「昭和天皇実録」と戦争』（岩波書店、2017）など。「第24回平和・協同ジャーナリスト基金賞」（日本版ピューリッツァー賞）の奨励賞を受賞。

**【第1部の登壇者紹介】**

○外村大（東京大学韓国学研究所センター長、東京大学大学院総合文化研究科教授）

主な著書に『在日朝鮮人社会の歴史学的-形成・構造・変容』（緑蔭書房、2004）、『朝鮮人強制連行』（岩波書店、2012）、『対話のために-「帝国の慰安婦」という問いをひらく』（共著、クレイン、2017）など。

○吉田光男（東京大学名誉教授）

放送大学名誉教授、日韓文化交流基金評議員。主な著書に『近世ソウル都市社会研究』（草風館、2009）、『漢京識略』（平凡社、2018）、『日韓中の交流』（編著、山川出版社、2004）など。翻訳に『韓国社会の歴史』（韓永愚著、明石書店、2003）など。

○森本和男（大阪経済法科大学客員研究員）

元千葉県教育振興財団上席研究員。主な著書に『遺跡と発掘の社会史』（彩流社、2001）、『文化財の社会史』（彩流社、2010）など。

○長澤裕子（東京大学韓国学研究所センター特任講師）

主な著書に『歴史としての日韓国交正常化』（共著、法政大学出版局、2011）、『朝鮮半島の分断と日本1941～1951』（高麗大学出版文化院、近刊）など。